

さんさんプラン さらに前進を

少人数級
小学

こんにちは

渡辺ゆり子



2011年10月16日
-12号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子

<連絡先>
県議会共産党執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

少子・高齢化対策特別委員会(9月30日)で、私は、県の少人数級編成「さんさんプラン」の今後のあり方について質問しました。



30人学級は
多くの父母の願い

今年度、国は学級定員を引き下げ、公立小学校1年生について35人学級としました。「報道で、文科省が来年度概算要求で35人学級を小学2年生まで広げるとしているが、国の動向はどうか」との質問に対し、酒井智子・義務教育課長は、「文科省は、35人学級について8年間で推進し、小学1・2年生については30人学級とする計画である」と述べました。

9月
県議会

請願3本を採択

県議会9月定例会は7日、全議案を原案通り議決して閉会しました。私が紹介議員となった請願の審査結果は次のとおりです。



2012年度県予算における私学助成関係予算の拡充について	採択、知事送付
高等学校教育に係る保護者負担の公私間格差の是正と教育予算の大幅拡充を求める意見書の提出について	採択、意見書提出
免税軽油制度の継続を求める意見書の提出について	採択、意見書提出
環太平洋パートナーシップ協定への参加反対を求める意見書の提出について	継続審査

だ34〜40人の学級が存在する。国の35人学級が進めば解消するのではないか。今後の「プラン」はどうしていくのか」と質しました。

酒井課長は、「さんさんプラン」は、今年度中に中学3年まで進められ、新たな教育課



題にも対応し、その結果、不登校は減少している。今後どうしていくのか、もっと

「と答えました。私は、「山形のさんさんプラン」は、全国から視察も相次いだ。多くの父母は30人学級実現を求めている。避難者対応や教職員定数との兼ね合いなど難しいと思うが、県の姿勢が問われている。ぜひ、さらに前進させてほしい」と強調しました。

酒井課長は、「さんさんプラン」の成果は、学力もだが、欠席率が低い。小学校は全国2番目、中学校は全国1番目で小中とも少ないので、このことを大切にしていきたい」と述べました。

ゆり子の視点

9月末に文部科学省の来年度予算の概算要求の内容が明らかになりました。

35人学級を小学2年生まで引き上げることや学校の耐震化、奨学金の充実などとともに、高校授業料無償化や私立高校の就学支援金についても、今年度並みに盛り込まれています。しかし、高校授業料無償化については、民・自・公3党で見直しすると報道されており、今後の

どうなる 高校授業料無償化

動向が注目されます。高校授業料無償化によって経済的困難を理由とした中退者数が減り、成果が出ていることが報じられていますが、特に私学では、依然として公私間格差が大きいものがあります。制度の後退は許されません。返す必要のない給付制奨学金創設と合わせて、さらなる充実が必要で、世界でも低い日本の教育予算の比率を高めること、県の上乗せ支援の充実のため、今後関係者と力を合わせていきます。

芸工大「統合」問題

法人と知事に要望書

総務常任委員会で議論された、東北芸工大の法人統合問題に関する、学校法人東北芸術工科大学と吉村知事に対し、要望書を提出しました(別項)。

県は7日付で、法人に5点にわたって要請しました。一方、学校法人東北芸術工科大学は、県民・市民向けの説明会を、23日(日)午後2時から、山形市役所向かいの山形商工会議所会館5階で開くとしています。

法人あて

東北芸術工科大学と京都造形芸術大学の運営法人統合への慎重な対応を求める要望書(議長名)

知事あて

東北芸術工科大学との連携確保及び県の補助金で取得した財産に関する適切な監督を求める要望書(総務常任委員長名)

山形県 赤旗まつり

お誘いあってご参加下さい

11月13日

小池 晃 議員 策長
記念講演



山形ビッグウイング
お問い合わせ 実行委員会 TEL023-644-1212